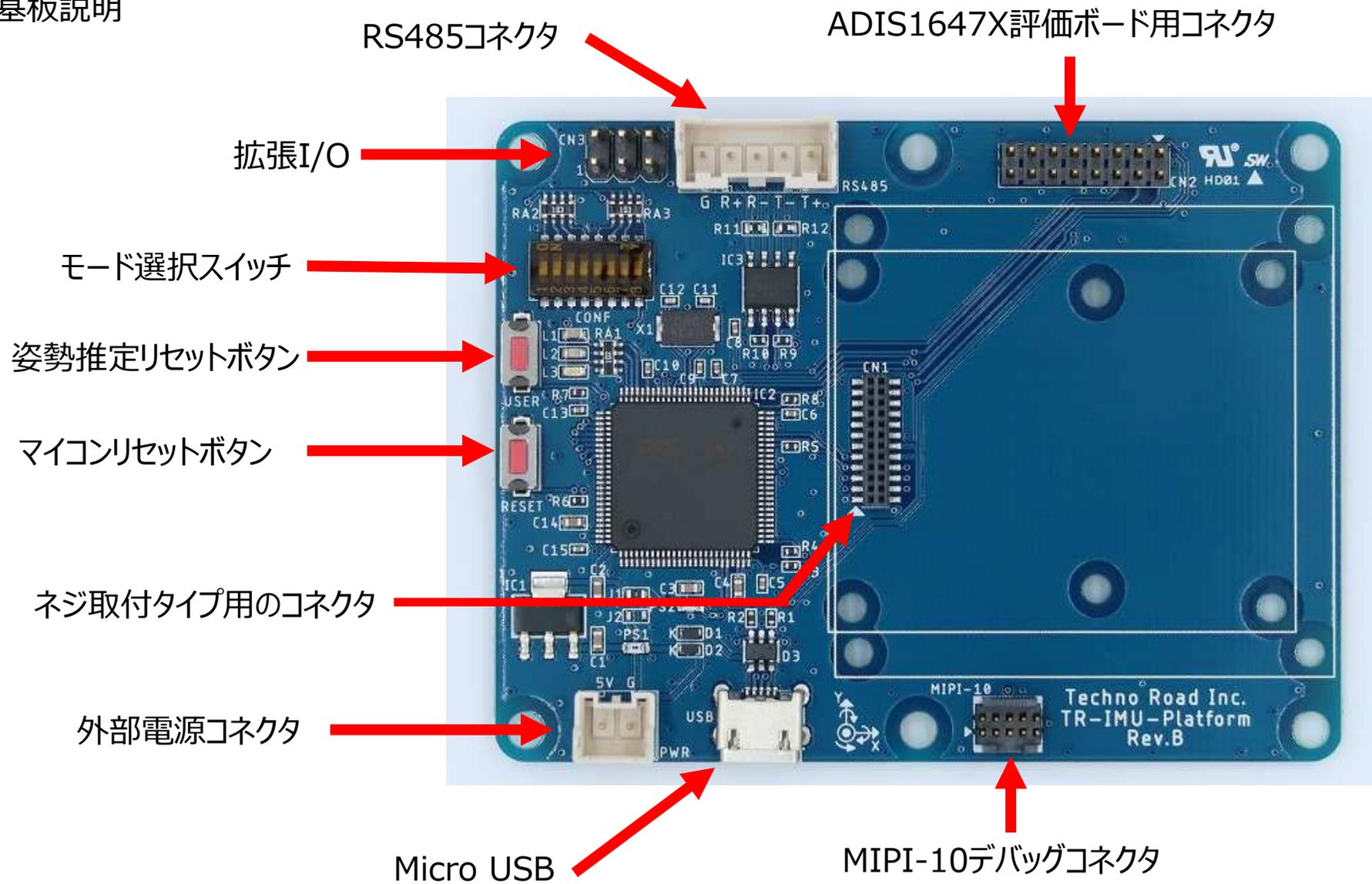


XPORT設定マニュアル

初版：2019年09月24日

IMU基板説明



XPORT基板説明

外部電源コネクタ

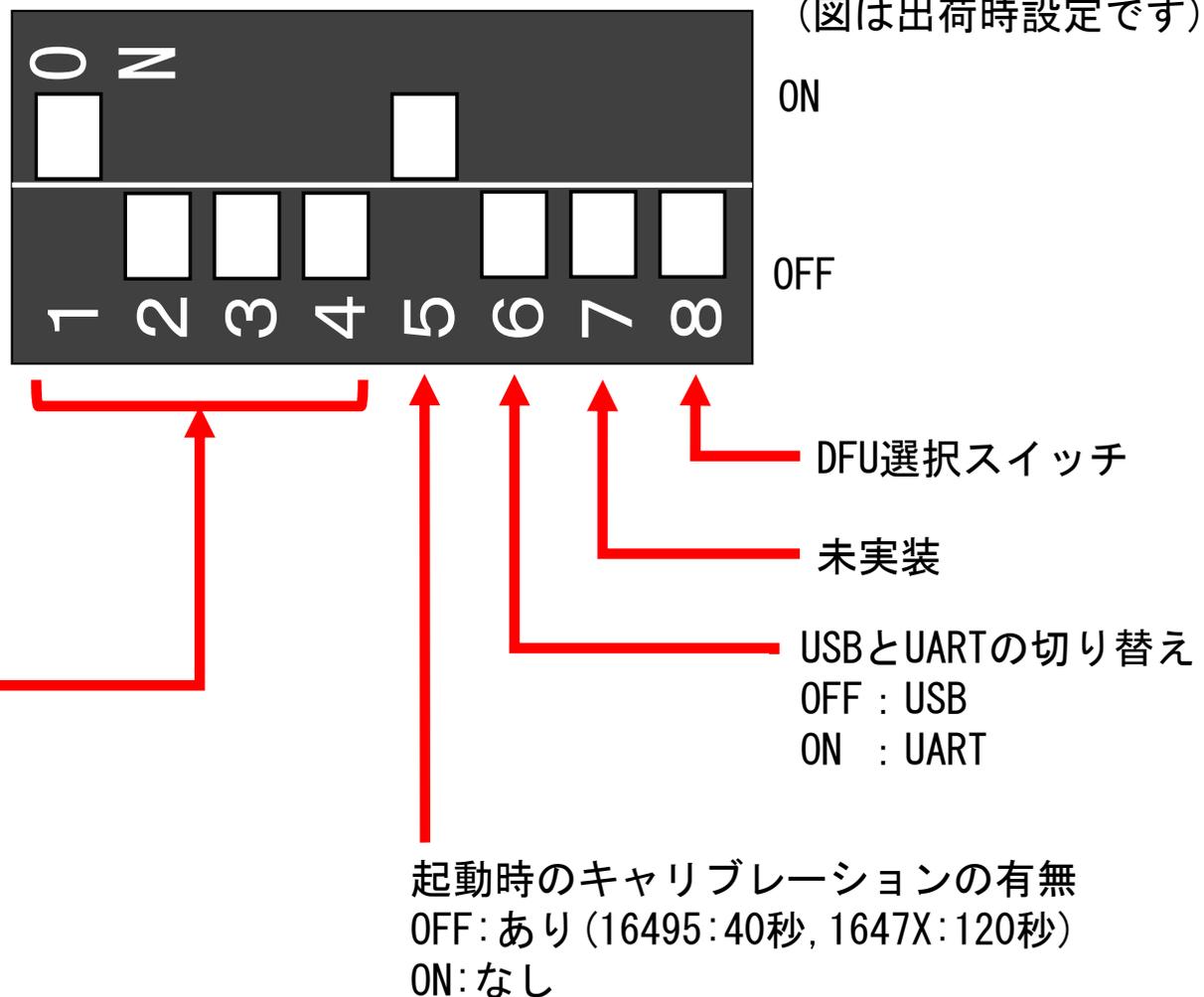
RS485コネクタ



LANケーブル差込口

モード選択スイッチ

動作モード	1	2	3	4
SPI モード	OFF	OFF	OFF	OFF
姿勢角 [deg] 出力	ON	OFF	OFF	OFF
ジャイロ [deg/s] 出力	OFF	ON	OFF	OFF
レジスタ値出力	ON	ON	OFF	OFF
バイナリ出力	OFF	OFF	ON	OFF
姿勢角 [deg] ・ 加速度 [g] 出力	ON	OFF	ON	OFF
ジャイロ [deg/s] ・ 加速度 [g] ・ 温度 [deg] 出力	OFF	ON	ON	OFF
XPORTシリアル設定	ON	ON	ON	ON



XPORTシリアル設定モード

このモードは後述のDeviceInstallerで設定できなくなったときに使用するモードです。
XPORTのIPアドレスを固定にした時に設定が間違っていて、自動検出ができなくなったときに有効です。

設定手順

1. IMU基板のモード選択スイッチで設定モードを選択して電源を入れる。
2. USBのCOMポートをTera termなどの通信アプリで開き、任意の文字を送れるようにする。
3. XPORT基板だけ電源を切る。
4. XPORT基板の電源を入れて、Tera termから1秒以内に' x' (小文字のエックス)を3文字以上送る。
5. 成功するとTera term上に設定ログが表示される。
6. 表示されるログやXPORTのマニュアルに従って操作して設定を行い保存して終了する。

ピンアサインとコネクタの型番

外部電源コネクタのピンアサイン(IMU基板とXPORT共通)

ピン番号	機能
1	5V入力
2	GND

RS485コネクタのピンアサイン(IMU基板とXPORT共通)

ピン番号	機能
1	TX+
2	TX-
3	RX-
4	RX+
5	GND

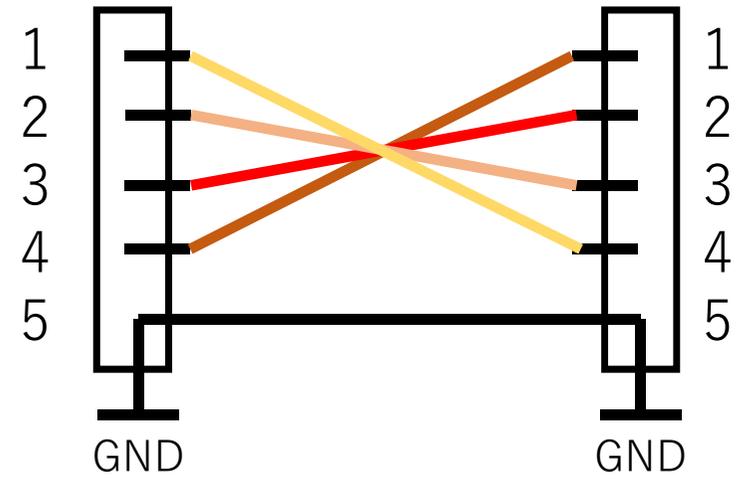
IMU基板のコネクタの型番

- 外部電源コネクタ : B02B-XASK-1
- RS485コネクタ : B05B-XASK-1
- 拡張I/O : 2.54mmピンヘッダ(未実装)
- ADIS1647X評価ボード用コネクタ : TMM-108-01-T-D
- 推奨ケーブル : TCSD-08-D-02.00-01-N

XPORT基板のコネクタの型番

- 外部電源コネクタ : B02B-XASK-1
- RS485コネクタ : B05B-XASK-1

RS485コネクタ同士の結線図
(1と2、3と4の組み合わせでツイストペアを推奨)



XPORの設定

Lantronix公式サイトからDLできるDeviceInstallerを使用することで設定できます。以下URLからDLできます。

http://ltxfaq.custhelp.com/app/answers/detail/a_id/644

このツールではXPORとPCを同じローカルネット内に接続することで自動的にXPORを検出して、複数接続されていても個別設定できます。

また、デフォルト設定ではDHCPを使用しているのでルーターなどのDHCPの割当機能がある機材が必須になります。

設定手順

1. XPORとPCをルーターがあるローカルネットに接続する (LANケーブルで繋ぐ)。
2. XPORに電源を入れる。
3. DeviceInstallerを**管理者権限で実行する**
4. 実行すると自動的に検索されるのでXPORの候補が出るまで待機する
5. XPORを選択した後に” Webコンフィギュレーション” タブを開いて緑の読み込みボタンを押す
6. 設定が終わったらApply Settingを押して設定を反映させる
7. XPORの電源を入れ直して動作確認を行う。

XPOR基板がデフォルトから変更している設定は以下になります。

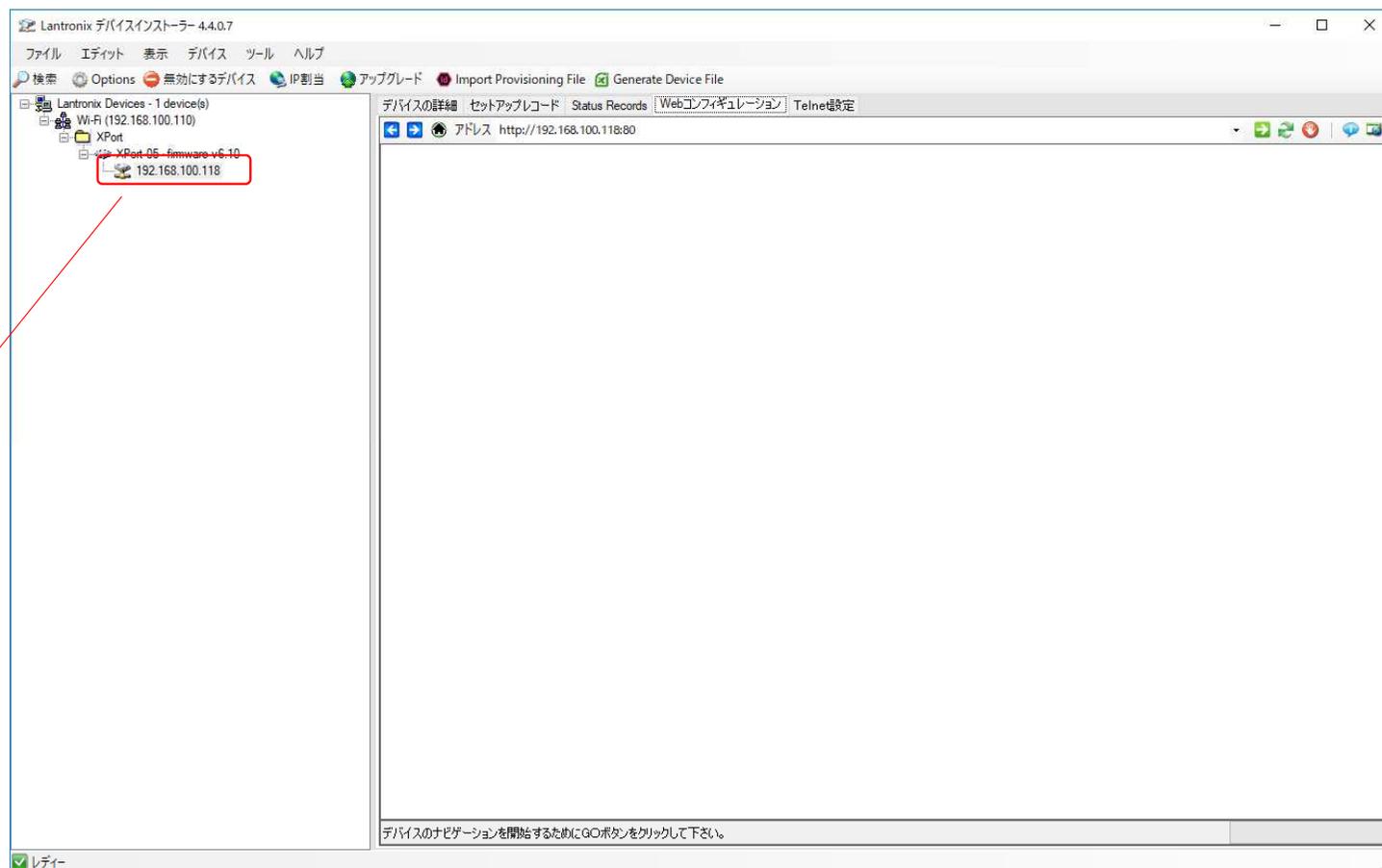
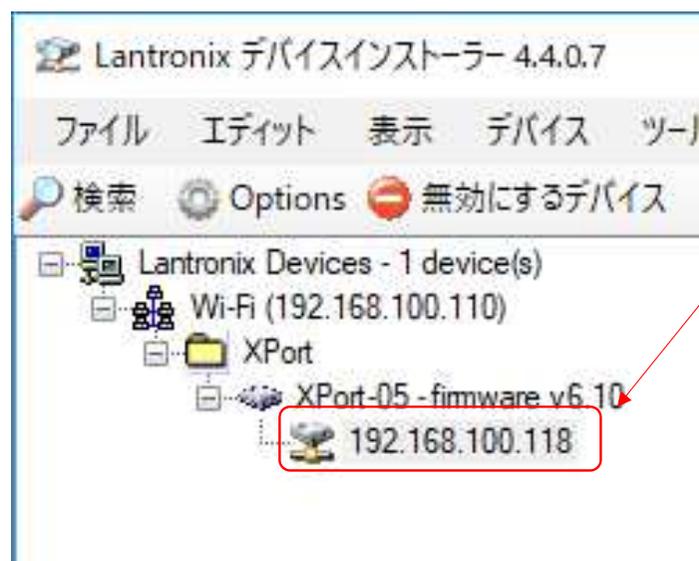
- ・ CPU Performance Mode : High
- ・ UARTのボーレート : 921600

XPOR基板で変更が可能な主な設定は以下になります (他未確認)。

- ・ 固定IPアドレスを設定、ポート番号の変更

XPORTのIPアドレスの確認方法

- インストール後、DeviceInstallerを実行します。(管理者権限)
- 自動的にXport (Ethernet module)が検出されます。



XPORT基板の寸法

